

平成 26 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	管 26K01	氏 名	古川 卓也
研究主題 —副主題—	グローバル化社会を生き抜く力を育てる教育課程に関する一考察 —グローバル人材育成に向けた取組を通して—		
所属先	教育庁指導部指導企画課	派遣先	創価大学教職大学院

項 目	内 容
I 研究の目的	<p>グローバル化社会を生き抜く力を育成するには、どのような教育課程を編成し、改善していけばよいのか。編成した教育課程を実施するには、どのような学校経営（運営）マネジメントが求められるのか。これらの問題意識に基づいて、「初等中等教育段階におけるグローバル人材の育成」事業の一つである「スーパーグローバルハイスクール（以下、「SGH」と表記。）」に着目し、SGH 指定校の取組の傾向及び特徴を明らかにし、考察するのが本研究の目的である。</p> <p>以下の二点を具体的な研究目的として取り組んだ。</p> <p>(1) SGH の取組の傾向及び特徴を明らかにし、その結果を基に、グローバル人材育成に関する教育課程を編成する上での視点を探る。</p> <p>(2) 学校組織で新たな教育課題を展開するための管理職の取組を明らかにする。</p>
II 研究の方法	<p>(1) SGH の取組の傾向及び特徴</p> <p>指定校の研究構想書（以下、「構想書」と表記）について、テキストマイニングを用いて、頻出語や関連性の強い語などの共起関係から傾向や特徴を明らかにする。SGH が教育課程の研究開発するために構想している視点を生成するため、計量的分析ができるフリー・ソフトウェア「KH Coder」を用いる。さらに、明らかになった視点に関する指定校の取組について、筆者による分析を基に構想書の内容を整理・分析し、教育課程編成のための検討課題及び方策について考察する。</p> <p>(2) 学校組織で新たな教育課題を展開するための管理職の取組</p> <p>小学校長にインタビュー形式で半構造化面接を行う。得られたデータを分析し、管理職の取組の理論化を試みる。分析手法は、小規模の質的データから理論を導き出す効果が認められている「SCAT」を用いる。</p> <p>得られた理論とレイブとウエンガー（以下、「レイブラ」と表記）による状況学習論を基に管理職の取組を考察する。</p>
III 研究の結果	<p>(1) SGH の傾向及び特徴についての分析結果</p> <p>① 「KH Coder」による分析</p> <p>頻出語や共起現象の強い語を絞り込みながら、階層クラスター分析を行った結果、SGH の取組の傾向及び特徴を示す主要素を明らかにすることができた。指定校の取組は、以下の七つの視点から研究構想されていることが分かった。</p> <p>【研究目的】 研究開発、取組の充実、検証・評価</p> <p>【人材像】 国際貢献、国際的な活躍、グローバル人材、グローバル・リーダー</p> <p>【資質能力】 多様な文化理解、グローバルな視野、思考力、コミュニケーション能力</p> <p>【学習方法】 テーマ設定、探究的学習、体験的学習、留学生との交流、調査、プレゼンテーション、提案、論文作成、英語の活用</p> <p>【学習内容】 国際社会や世界、ビジネス、環境、経済、平和、共生</p> <p>【教科・領域】 総合的な学習の時間、英語</p> <p>【体制】 地域、大学、企業、専門機関</p> <p>② 七つの視点を基に行った筆者による分析</p> <p>上記の七つの視点に基づき、SGH 指定校の構想書を整理・分析した結果、グローバル化社会を生き抜く力を育てる教育課程を編成するための方策及び検討点を見出す</p>

	<p>ことができた。本報告書では三点記載する。</p> <p><b>【多様な評価手法による学習評価の実施に向けて】</b> パフォーマンス評価及びルーブリック評価、ポートフォリオ評価などの手法を用いて、振り返りの充実や子供の学習プロセスにおける質的変容の省察に努める。</p> <p><b>【資質能力の育成のために】</b> 批判的思考力と創造力（創造的思考力）、表現力・発表力、公共性と倫理観の育成に重点を置いた指導を行う。</p> <p><b>【総合的な学習の時間の充実のために】</b> 教科横断的な内容等からの単元開発、教科関連型の単元構想から地域貢献の意識や自己有用感を育む。</p> <p>(2) 学校組織で新たな教育課題を展開するための管理職の取組の分析結果 SCAT を用いた分析を通して、管理職の取組について以下の理論を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル人材の育成のため、教員には日常生活における問題を解決する学習の展開と教科を横断する能力の系統的な指導に関する学習計画を立てさせる。</li> <li>○教員の主体性を発揮させるためには、指導と育成のバランスを保ちながら、教育課程の達成、経営方針やビジョンの方針の共有等への意識を高めていく。</li> <li>○教職員には、新たな取組を実施する際、教員の多様な経験や組織の状況に応じて、実施の見通しや方策を丁寧に説明する。</li> <li>○管理職とは、理想の学校像を描き、子供や教員の育成計画を立案しながら、組織の成長を継続させていく。</li> </ul> <p>また、レイブラの状況学習論を基に、「新規採用者や転入者に対する育成の手だて」、「管理職に求められる姿勢」に関して、以下の点を明らかにした。</p> <p><b>【新規採用者や転入者に対する育成の手だて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の学習経験を発揮させる機会を作る。</li> <li>○学校運営への関与、直接的な参加の機会を保障する中で教員を育成する。</li> </ul> <p><b>【管理職としての姿勢】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の実践を語る機会を通して、教員に教育課程の趣旨を学ばせていく。</li> <li>○実践を価値付け、そのことが学校の成長に寄与していることを明確に発信する。</li> <li>○学校運営の中核となる教員を育成するための組織編成や職場環境を構造化する。</li> <li>○学校の教育目標の実現という目的を前提として、教員が職務上の目標を設定できるよう、その動機付けに留意する。</li> </ul>
<p><b>IV 考察</b></p>	<p>SGH の取組の傾向から、小・中学校での実践では総合的な学習の時間による実践及び検証が望ましいのではないかと考える。これらのことを踏まえて、今後のグローバル化社会を生き抜く力の育成やグローバル人材の育成における学校経営・運営の課題は、総合的な学習の時間等を核としたカリキュラムマネジメントになるのではないかと推測する。このことから、探究的な学習に対する教員の指導力の向上と、カリキュラムマネジメントの促進に取り組むことが鍵になると考える。</p> <p>今後は、校種毎に取り組まれている「グローバル人材の要素」をはじめ、資質・能力の育成を系統的に行うための方策が必要になると考える。これらの課題に対して、国際バカロレアは、初等教育から大学入試までを視野に入れた教育プログラムを編成していることが分かった。中心概念や単元設計などのカリキュラムを作成するためのガイド及び教授法、評価方法、教員ワークショップ等の方策は、課題の解決に有効な手だてとなり得るのではないかと考える。</p>

